

福岡市 洪水ハザードマップ

保存版
発行日
令和7年3月

大洪水から
あなたの家族と
いのちを守る

「福岡市洪水ハザードマップ」は、想定される最大の大雨によって河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域や避難所の位置を地図に示したものです。このハザードマップは、想定される最悪の洪水においてあなたとあなたの家族の命が守られることを目的に作成しています。また、より発生する確率の高い、中規模の大雨によって河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域についても別途公表しています。中規模の大雨に対する警戒避難や、企業における業務継続計画の作成については、こちらも活用ください。

その他のハザードマップ

土砂災害

土砂災害警戒区域等を掲載しています。

高潮

高潮発生時の浸水状況を掲載しています。

ゆれやすさ

警固断層南東部を震源とする地震が発生した場合の揺れの強さを掲載しています。

津波

津波のおそれがある区域等を掲載しています。

総合ハザードマップ

各種災害リスクをインターネット上で一元的に確認できます。地域や家庭における防災・減災のため、身の回りの災害リスクや避難経路等の確認にご活用ください。

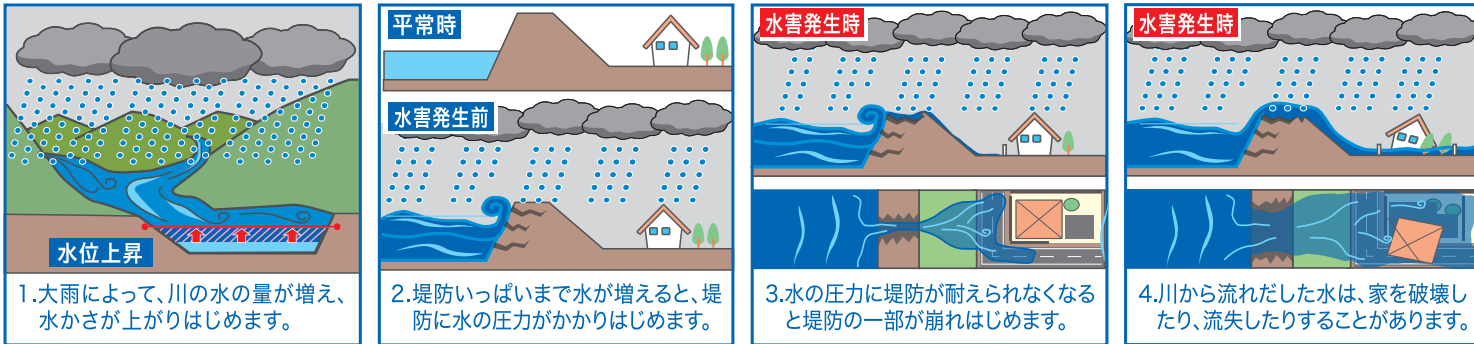
【各種ハザードマップURL】 <https://webmap.city.fukuoka.lg.jp/bousai/>

【編集発行・問合せ先】
福岡市市民局防災・危機管理部 防災推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 TEL 092-711-4153

■ 洪水を学ぶ ～正しい知識を身に付けよう～

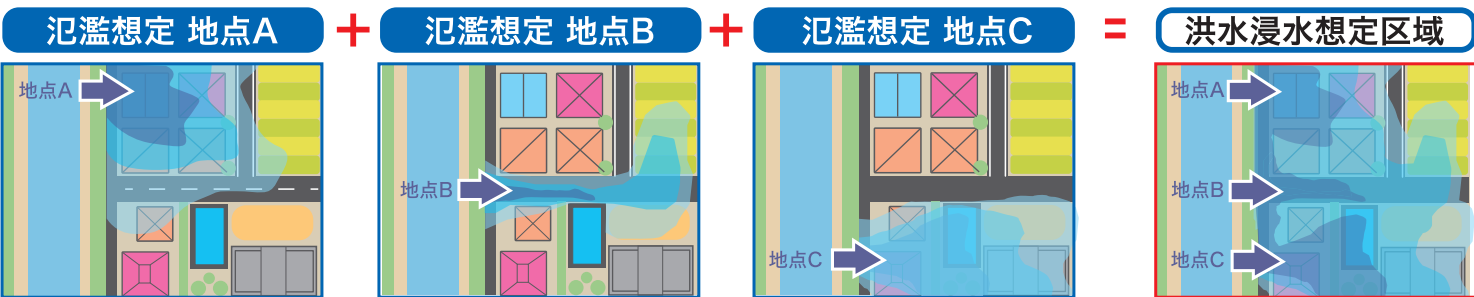
■ 洪水発生メカニズムとは？

洪水とは、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越える（越水）などして起こります。



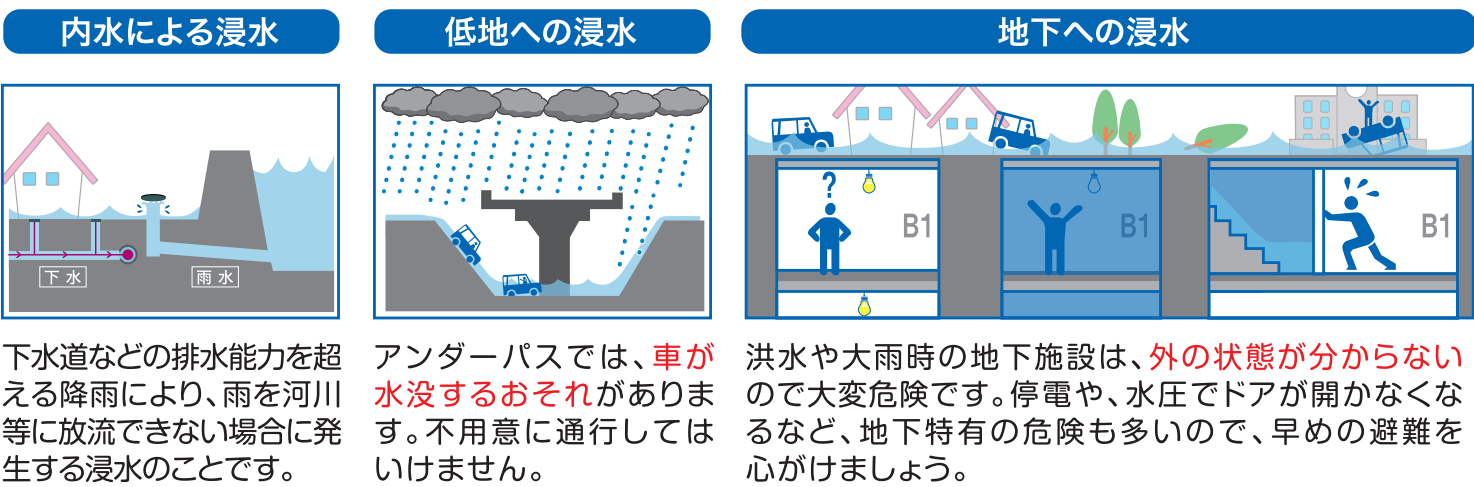
■ 洪水浸水想定区域とは？

洪水浸水想定区域とは、河川の氾濫により、浸水が想定される区域です。また、下図のように、全ての氾濫想定地点（堤防の決壊等が想定されるところ）から、どのように氾濫、浸水するかを予想して、全ての予想結果を重ね合わせて最大となる浸水の区域、深さを表示しています。実際の洪水では、氾濫想定地点のうち、いずれかの箇所で氾濫が発生し、浸水が広がっていきます。



■ 都市型水害の特徴とは？

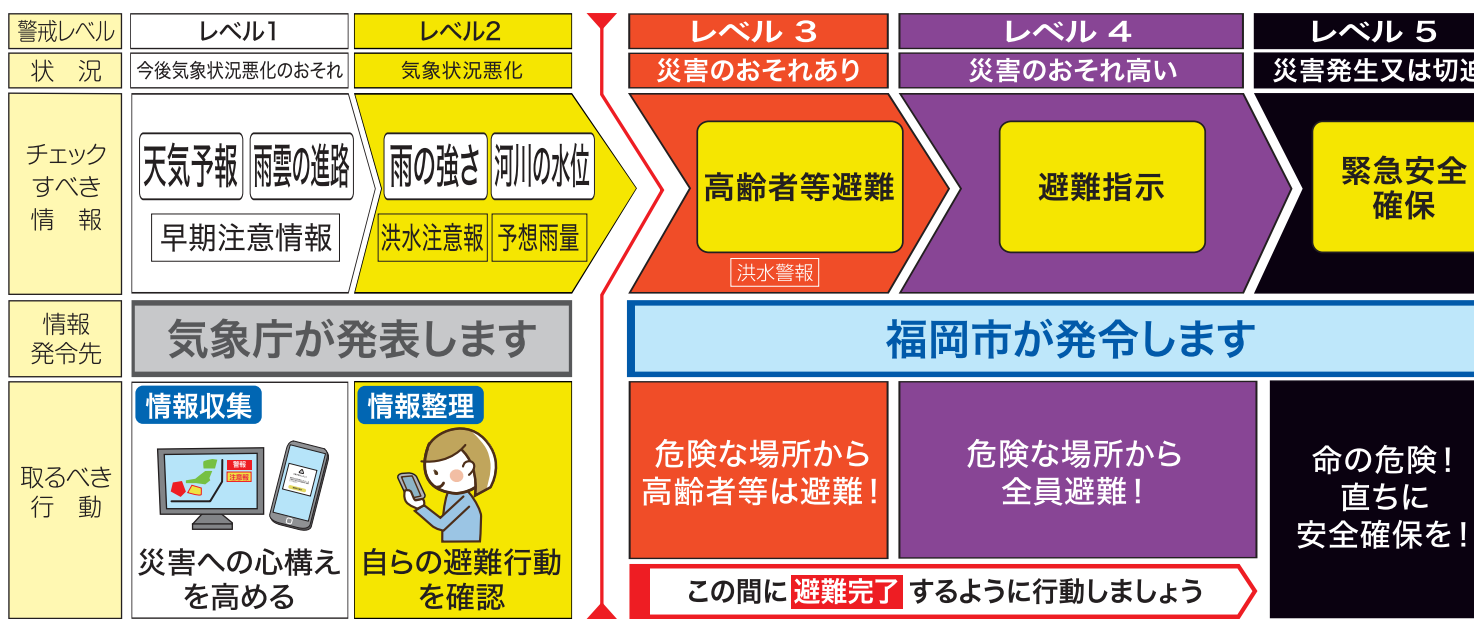
都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいので、川や水路、下水道に一気に集まる場合があります。次のような都市特有の水害による危険があるので注意しましょう。



■ 洪水から身を守る ～情報を理解しよう～

■ 洪水に関する情報を理解しよう

洪水発生のおそれがあるときは、避難情報や防災気象情報などに注意して早めの避難を心がける必要があります。洪水（降雨）に関する情報を理解して、避難する際に役立てましょう。

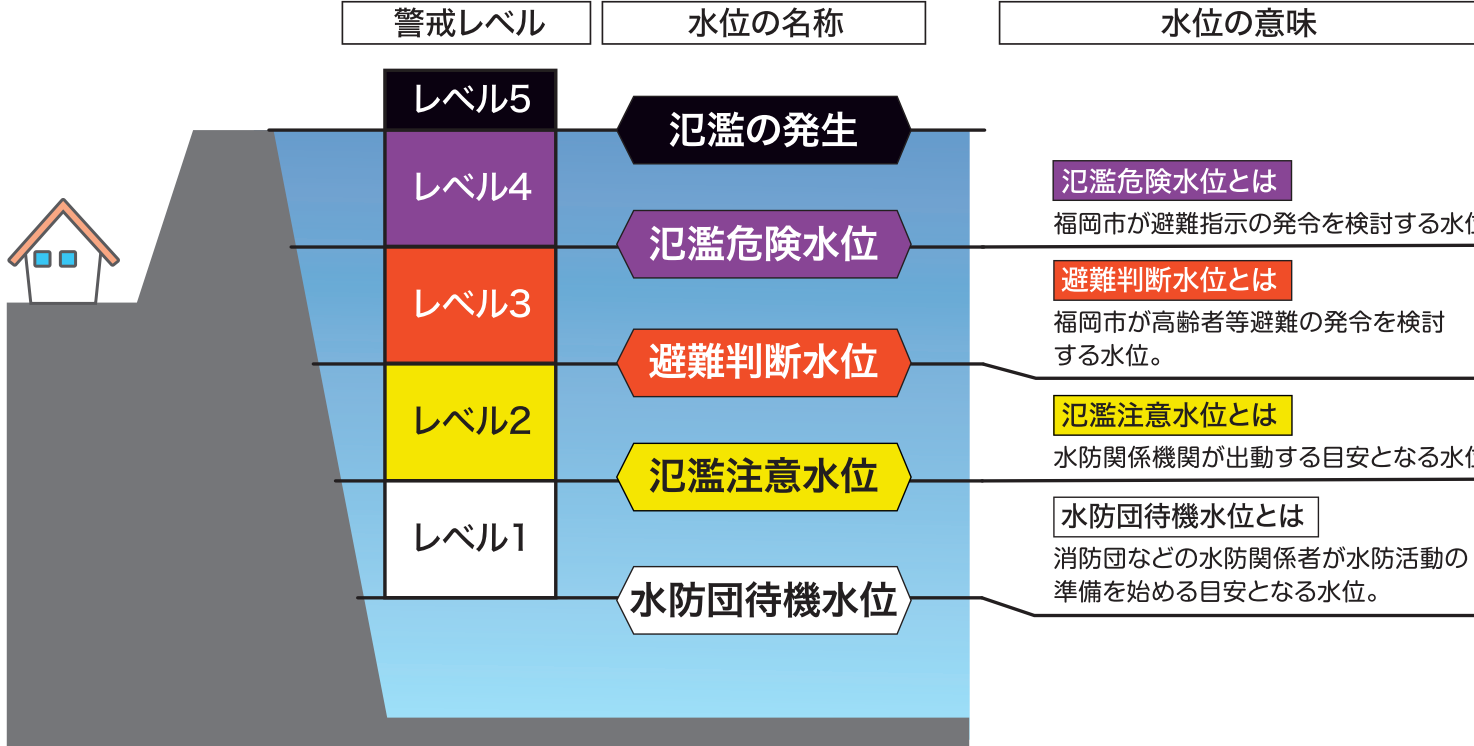


★ 大事なポイント！

警戒レベルも避難情報も、必ずしもレベルの低い方から順に発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合はご自身の判断で避難を始めてください。

■ 河川の水位に関する情報を理解しよう

河川の水位情報を市ホームページやテレビなどから入手し、避難する際に役立てましょう。



■ 避難行動を学ぶ

■ あなたがとるべき避難行動は？

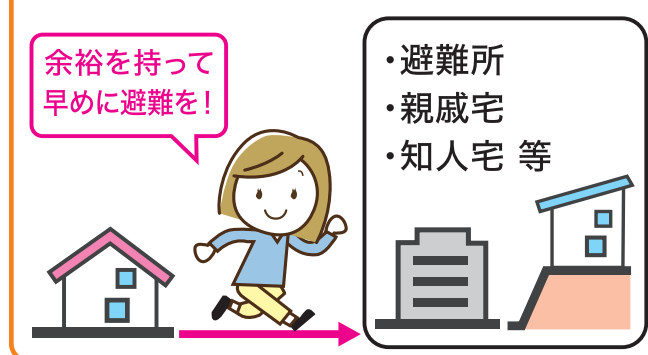
洪水ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、他のハザードマップや最新の防災気象情報、避難情報等を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので、原則として、**立退き避難**（自宅の外に避難）が必要です。災害が発生する前に安全な場所へ避難しましょう！



浸水の危険があっても、次の3つが確認できれば、**屋内安全確保**（在宅避難）も可能です。

- ①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれのある区域（家屋倒壊等氾濫想定区域）の外側である
 - ②浸水する深さよりも高いところにいる（マンションの高層階等）
 - ③浸水しても水がひくまでの時間（浸水継続時間）我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある
- ※浸水時は、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなる可能性があります。

大雨の際、**全ての指定避難所が開設されるわけではありません**。避難所に避難する場合は、開設状況を市ホームページやニュース等で事前に確認しておきましょう。

★ 大事なポイント！

避難が遅れ、災害が発生・切迫している状況で立退き避難が危険な場合には、命の危険が迫っているので、自宅や近くの建物で少しでも浸水しにくい高い場所に避難するなど、直ちに身の安全を確保してください。（緊急安全確保）

■ 河川の水位情報を入手しよう

ホームページ上の「福岡市防災気象情報ページ」や、気象庁のホームページから、水位観測所や河川カメラ等の情報を入手できます。大雨の時は水位を確認し、避難行動を開始する目安としましょう。

福岡市防災気象情報

検索

ホームページの画像（イメージ）

①にカーソルを合わせると

橋名 ●●
現在の水位 0.12m
氾濫危険水位 2.52m
避難判断水位 2.40m
避難注意水位 2.19m
住所：●●区○○

②にカーソルを合わせると

場所名 ●●
10分雨量 0.0mm
60分雨量 0.0mm
住所：●●区○○

③をクリックすると

現在 通知

河川の様子を見ることが出来ます

④自宅付近の水位局

⑤自宅より上流の水位局

河川の水位の監視方法

①自宅付近の河川の水位を確認！
自宅付近の河川の水位を確認しましょう。河川の水位毎に、氾濫の危険度が区分されています。

②自宅より上流の現在の雨量や河川の水位を確認！
上流で激しい雨が降ると、下流の水位が上昇することが予想されます。自宅よりも上流の雨量や水位を監視しましょう。

■ 安全に避難するための6ヶ条

① 浸水が始まる前に避難をしよう！
事前に避難を！

② 川や橋には近づかない！

③ 側溝やマンホールには注意！

④ お年寄りや障がいのある方等の避難の手助けを！

⑤ 車での避難はひかえよう！

⑥ 非常持ち出し品は最小限に！
貴重品 ●● お薬 ●●
非常食 ●● お水 ●●
衣類（上着・下着・ブラケット等）
衛生用品（生理用品・マスク等）

防 災 コ ラ ム

～防災に役立つ豆知識～

非常時の食料は備蓄していますか？
役立つ食料備蓄方法

～ローリングストックってなに？～

非常食を定期的に飲食し、使用した分を補充するという備蓄方法をローリングストックといいます。非常食の消費期限を気にせずに、常に必要な数量が手元に確保できます。

公的な備蓄は一般的なものが多く、常備薬やアレルギー対応食品・粉ミルク・生理用品など、個人特有のものも備えておきましょう。

■ 防災情報を入手する

■ 災害が起こる前に「事前に」登録しよう

防災アプリ「ツナガル+（プラス）」

災害時の避難行動や避難生活を支援する防災アプリです。

近隣の避難所の位置や設備を一覧、地図で表示するほか、避難所へのルートを確認できます。

また、電子掲示板などで利用者間はもちろん、市との情報共有もできます。

福岡市 ツナガル+ プラス 検索 無料

Google Play Store

App Store

近隣の避難所を確認

避難所の設備の表示

避難所へのルート表示

福岡市 LINE 公式アカウント

福岡市 LINE アカウント 検索 無料

防災、ごみの日、子育て、防災・交通安全、イベントなどから、選択した情報だけをLINEでタイムリーにお届けします。



登録方法

■ いざという時に調べてみよう

テレビのデータ放送

災害時、テレビのリモコンのdボタンを押して、防災気象情報や避難情報を入手できます。



■ 災害時安全確認の方法

災害用伝言ダイヤル（171）

大規模な災害時に、固定電話、携帯電話を用いて安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

録音方法

1 7 1 に電話をかける

録音する場合は1（伝言番号を利用する場合は3）

電話番号・携帯電話番号・IP電話番号などの電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

再生方法

1 7 1 に電話をかける

再生する場合は2（伝言番号を利用する場合は4）

電話番号・携帯電話番号・IP電話番号などの電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

※通話料は、NTT（東西）の回線からの場合は無料、その他の事業者や携帯電話からの通話料については、各事業者にお問い合わせください。

おしえて！ わかりやすく解説します！

想定最大規模降雨と計画規模降雨ってなに？

この「福岡市洪水ハザードマップ」は、**想定最大規模降雨**による洪水浸水想定区域図を基に作成しています。この他にも、福岡県が指定した水位周知河川については、**計画規模降雨**による洪水浸水想定区域図も作成・公表されています。

想定最大規模降雨は、現時点で想定し得る最大規模の降雨を、過去の気象観測データ等から導き出した、発生頻度は極めて低い（1年間に発生する確率が1/1,000（0.1%））が、一度発生すると被害が極めて甚大となる恐れがある大雨のことで、降雨量は河川毎に異なります（想定される降雨量は地図面に記載）。

ちなみに…1/1000というのは…

「1,000年ごとに1回」という周期的に発生する降雨を意味するものではなく、毎年0.1%の確率で発生する可能性がある降雨を意味しています。

質問！発生頻度が低い降雨でハザードマップをつくるの？

最近では、全国各地で水害による被害が発生し、被災者からは、「今まで経験したことがない」という言葉も聞かれます。このように雨の降り方が明らかに変化しているなか、最悪の事態にあっても、「少なくとも命を守る」ことを目標に、住民、企業、行政で危機感を共有し、それぞれが備えるために、想定最大規模降雨によるハザードマップの作成・周知が法律で義務付けられています。

計画規模降雨は、「河川整備の目標とする降雨」のことで、河川の大きさや想定される被害の大きさを考慮して、河川毎に定められるものとされており、比較的发生頻度が高い（1年の間に発生する確率が1/100～1/30（1%～3%））降雨です。

住民の皆様や企業等に、降雨の規模に応じて洪水リスクが異なることを適切に理解していただき、避難行動に役立てていただければ幸いです。

計画規模降雨による浸水想定区域は、福岡県ホームページや、福岡市総合ハザードマップから確認できます。

福岡市 総合 ハザードマップ 検索

パソコンで検索しよう！

また、右の2次元コードを使えば、簡単に携帯やスマートフォンで確認できます！

質問！計画規模降雨ってなに？どうして公表するの？

計画規模降雨は、河川整備の目標とする降雨のことで、河川の大きさや想定される被害の大きさを考慮して、河川毎に定められるものとされており、比較的发生頻度が高い（1年の間に発生する確率が1/100～1/30（1%～3%））降雨です。

住民の皆様や企業等に、降雨の規模に応じて洪水リスクが異なることを適切に理解していただき、避難行動に役立てていただければ幸いです。

計画規模降雨による浸水想定区域は、福岡県ホームページや、福岡市総合ハザードマップから確認できます。

福岡市 総合 ハザードマップ 検索

パソコンで検索しよう！

また、右の2次元コードを使えば、簡単に携帯やスマートフォンで確認できます！

